

# 第1章

～建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的～

## 第1章 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

### 1. 建学の精神

多摩大学は、昭和12(1937)年以来、「質実清楚・明朗進取・感謝奉仕」の創立精神に則り、**社会の進展に貢献する自立した人材の育成を教育の柱としてきた**学校法人田村学園を母体とし、平成元(1989)年、理事長田村邦彦及び初代学長野田一夫により、田村学園創立の精神を踏まえ創立されたものである。

### 2. 大学の基本理念

元号が昭和から平成に変わった時代は、単に元号が変わったというにとどまらず、グローバル化や高度情報社会の進展という世界にとっての歴史的転換期でもある。本学はまさにそういう時代の幕開けに創立された。本学の創立以来の理念は、国際性、学際性、実際性の三つのキーワードで表現される。

#### 〈国際性〉

日本は歴史上初めて国全体が本格的なグローバル化の波に洗われている。国内のみならず、国際社会で活躍できる人材、グローバル社会の一員として積極的な役割を果たす人材の育成が急務であるとの認識のもと、国際化のための教育カリキュラムの充実に取り組んでいる。

#### 〈学際性〉

行き過ぎた専門化の弊害を是正するため、学際的な研究・教育への取組を重視。経営学と情報技術の進展が密接不可分の関係にあることから生まれた学際的な領域である「経営情報学」を設立する。

#### 〈実際性〉

大学に対する「象牙の塔」批判を克服すべく、「社会に通用する大学」を標榜する。とくに、経営情報学という学問分野においては、実践的な最先端知識とアカデミックな研究の融合が不可欠であることから、教授陣については、アカデミックなキャリアを有する人材のみならず、実業界での最先端の実績を持つ人材を数多く集めてきた。

### 3. 大学の使命・目的

本学の目的については、建学当初から「学則第1条」に掲げてきたが、平成19(2007)年度に新たにグローバルスタディーズ学部を開設し2学部体制になったことに伴い平成20(2008)年11月に学則改正を行った。学則第1条に本学全体の目的を掲げ、第3条2項及び3項に経営情報学部とグローバルスタディーズ学部の目的を明示した。

#### 〈学則第1条〉

「多摩大学は、永年に及ぶ産業教育における経験を基盤とし、国際化・情報化時代に即応して、学生に高度な外国語能力と世界に通用する教養・最新の経営知識及び的確な情報処理能力を修得せしめ、国際的ビジネスの場で活躍できる人材の育成を目指すとともに、わが国の産業社会の健全たる発展に寄与する指導的人材を育成することを目的とする。」

#### 〈学則第3条〉

2 経営情報学部は、企業経営、情報科学に関する学術と応用を教授研究し、高度の経営情報知識と、これを支える豊かな教養とを合わせ備えた創造的、実践的な問題解決能力を有する人材を育成することを目的とする。

3 グローバルスタディーズ学部は、文明・歴史・経済・多文化交流などに関する学術と応用を教授研究し、語学力を活用したコミュニケーション能力とグローバルな問題を解決できる能力を持ち、国際基準の知識とこれを支える教養をもとにグローバルな舞台で活躍できる人材を育成することを目的とする。

本学の使命・目的を果たし、さらに発展させるべく、平成 18(2006)年度より経営情報学部に従来の経営情報学科に加えてマネジメントデザイン学科を新設。平成 19(2007)年度より湘南の地にグローバルスタディーズ学部を設置した。また、平成 5(1993)年度より社会人を対象とした夜間大学院（修士課程、博士課程）を設置するとともに、知の創出機関として、6つの研究所が所属する研究開発機構も設置している。

以上のように本学は、小規模ながら限りなく個性的な大学として、国内においては、広く各界の指導層から深い信頼と親愛の情を寄せられ、諸外国からは、情報分野をはじめとする各種国際交流に最適の担い手として折り紙をつけられる大学であることを理想としている。

#### 4. 大学の個性・特色等

本学は「国際的ビジネスの場で活躍できるとともに、わが国の産業社会の健全たる発展に寄与できる指導的人材の育成」のため、建学の精神、使命・目的の具現化を目指し、実学を推し進め、発展させることに努めている。

本学の特色として、

- ・即戦力の人材育成を目指した実践重視の実学教育

建学の精神、使命・目的に従って、社会に通用する人材を輩出するため、「より多く覚える」より「覚えたものを自分らしく使う」方法を一緒に考え・実践する教育スタイルをとっている。

- ・「志」を育てる徹底した双方向型少人数教育

教員と学生が緊密な対話を通じて知識を創発し、産業界に新分野を切り拓く「志」と「問題解決能力」を持った人材を輩出するため、徹底した少人数教育を目指し、学部において「講義中心大学」から「ゼミ中心大学」への転換を指向している。

- ・深い知の力を開発し、実践知を教えられる充実した教員構成

ビジネス界で活躍し、その知を伝達できる経験豊かな教員や、グローバル社会に対応する深い知の力を開発し教えることのできる教員を多数配している。

## 1-1. 建学の精神・大学の基本理念について

### 学内外への周知

本学の母体である学校法人田村学園の寄附行為には、学園建学の精神として、「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、学園建学の精神である『質実清楚・明朗進取・感謝奉仕』を礎とし、豊かな個性を伸ばし、新しい時代に活躍できる人材を育成することを目的とする」（第3条）ことが掲げられている。この精神を礎とした本学の、「国際性」「学際性」「実際性」の3つのキーワードで表現される基本理念は、以下のように学内外に周知されている。

#### [学内]

- 印刷物として全学生に配布する「学生生活ハンドブック・シラバス」に建学の精神及び基本理念を掲載し、本学の目的を謳った学則を添付している。
- 本学のホームページ(<http://www.tama.ac.jp/>)に、「多摩大学建学の理念」をつねに掲載し、学生、教職員に周知させている。
- 新任教員（常勤・非常勤）に対するガイダンス時に、学部長及び学長室長より、建学の精神・大学の基本理念についても説明を行っている。その際、非常勤教員に手渡す「非常勤講師（客員教授）の手引き」にも建学の精神・基本理念を掲載している。
- 毎年の入学式の式辞の中で、学長が関連して述べている。同日に開催される新入生の保証人懇談会の場でも各学部長が大学の基本理念に触れている。
- 新任職員（常勤・非常勤）に対して、着任時に事務局長が建学の精神・大学の基本理念を説明している。
- 年度初めの全体朝礼の際、毎年事務局長から全事務職員に大学の基本理念、目的・使命について再確認がなされている。
- 経営情報学部1年次の必修科目として「多摩大道入門」を開講している。この科目は7、8人の教員がグループで担当し、学生が「自分は何者であるか」「社会の中で自分の立ち位置はどこか」を考え、「何のために学問するのか」「何のために大学へ通うのか」を自分自身で発見していくことが、開講の趣旨である。この講義の中で、学生がこれから学ぼうとする本学の特色や教育目的、建学の精神・基本理念が具体的に説明され、学生の理解を促している。

#### [学外]

- 本学のホームページに、「多摩大学建学の理念」をつねに掲載している。
- 大学及び大学院の入学案内に、建学の精神・大学の基本理念を掲載している。
- 本学の広報誌「rapport」に、年1度、建学の精神・基本理念を掲載し、周知を図っている。

### 1-1の自己評価

小規模大学の利点を生かし、入学式やガイダンス、朝礼などで、教職員及び学生には建学の精神・基本理念は直接説明ができています。ホームページにも常に基本理念を掲載しているものの、各種印刷物への掲載は徹底されているとは言えない。

### 1-1の改善・向上方策（将来計画）

口頭伝達はよくできているが、視覚伝達（印刷物等）が劣っているため、大学・大学院案内、学生ハンドブック・シラバス、非常勤講師手引きなどに建学の精神・大学の基本理念をより明確に掲

載する。ホームページの内容にも検討を加え、記念シンポジウムや記念出版など、平成 20(2008)年度から平成 21(2009)年度にかけて行われる一連の創立 20 周年記念プロジェクトなどを通して、基本理念を含めた本学の独自性を、学外に対して積極的にアピールしていく。

## 1-2. 大学の使命と目的について

### 学内外への周知

本学の目的については、建学当初から「学則第 1 条」に掲げてきたが、平成 19(2007)年度に新たにグローバルスタディーズ学部を開設し 2 学部体制になったことに伴い平成 20(2008)年 11 月に学則改正を行った。学則第 1 条に本学全体の目的を掲げ、第 3 条 2 項及び 3 項に経営情報学部とグローバルスタディーズ学部の目的を明示した。(6 ページ参照) またその周知については 1-1 と同様に行うとともに、大学及び大学院の入学案内の中で、大学の使命・目的を含めた本学の特色及び育成する人材について言及している。具体例をあげると、平成 20(2008)年度大学案内の中の経営情報学部の教育目的として、「現代のビジネス社会が求めている経営と情報をひとつに融合させた学際的、かつ実地的な知識・技術と国際コミュニケーション能力を身につけた創造的実践的人材の育成を目指しています。ゼミ中心型教育で、一人ひとりの行き方・学び方に気づかせ、成長を促す教育システムに特徴があります」と、高等学校の生徒にもよく理解できるよう記述されている。

### 1-2 の自己評価

本学の使命・目的は、学園建学の精神と基本理念を受けて創立時より学則に明確に定められてきたが、平成 19(2007)年度のグローバルスタディーズ学部開設に伴い、大学全体の使命・目的を定め、学則を改正して第 1 条にこれを掲載し、第 3 条に学部ごとの教育目的を明示した。

使命・目的の学内外への周知については、建学の精神・大学の基本理念と同様に、入学式・ガイダンス、朝礼などを通して、学生・教職員には直接説明はできている。その反面、各種印刷物への掲載は遅れている。

また、大学の使命・目的に基づいた教育を展開するため、教員による全体ミーティングが年に数回開催され、活発な議論がなされている。このことは評価できるが、議論を踏まえた大学の中長期計画の策定が固まっていない。

### 1-2 の改善・向上方策 (将来計画)

使命・目的の視覚伝達 (印刷物等) が劣っているので、大学・大学院案内、学生ハンドブック・シラバス、非常勤講師手引などに、「学則」をただ掲載するだけでなく、「ミッション・ステートメント」も明確に掲載し、具体的に説明する工夫をする。ホームページにも同様の検討・工夫をする。大学の使命・目的に基づいた、今後の本学の進路を左右する中長期計画の策定を急ぎ、方向性を示す。平成 19(2007)年 9 月にこの「中長期計画策定」のための「多摩大学将来構想委員会」が組織され、平成 20(2008)年 1 月に、同委員会による新カリキュラム案が策定され、平成 20 年度から実施された。また、平成 20(2008)年 11 月には、多摩キャンパスの経営的自立を主目的に「経営企画室」(室長・林川眞善特任教授以下教職員 8 人で構成) が設置され、経営的自立と中長期計画策定を目指している。

## 〔第1章まとめ〕

本学の建学の精神・基本理念及びこれを踏まえた大学の使命・目的は、明確に定められ、印刷物での周知には遅れはあるものの、学則に明示されるとともに、ホームページ及びガイダンス・入学式などでの口頭での説明等でほぼ周知されている。

また、大学の使命・目的を達成するための、学部・学科の整備についても、平成18(2006)年度に経営情報学部に従来の経営情報学科に加えて、マネジメントデザイン学科を設置し、平成19(2007)年度にグローバルスタディーズ学部を開設するなど、整備は着々と進んでいる。

建学の精神・基本理念及び大学の使命・目的の周知方法で不足している印刷物等視覚情報の向上を図るなど、学外への広報の機会、特に平成21(2009)年度に行われる創立20周年記念シンポジウムや記念出版などを活用して、本学の理念や特色に対する認知度を高める。

本学の使命・目的をより具体化させ、教職員の意識向上を図るために、経営的自立を含めた多摩大学の中長期計画を新設の経営企画室も含めて各部門が多角的に検討し、それを集約する方向でとりまとめをはかる。